

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3【そなえる】	⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】 平成23年3月11日に発生した、東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。	総 合

【題材】被災地への訪問学習

【対象】3～6学年児童40名（3年 9名、4年 13名、5年 10名、6年 8名）

【実践の概要】

児童の実態

被災地は遠いので行ったことがないよ。

テレビでは被災地の様子を見たことがあるわ。

東日本大震災のことをもっと知りたいな。

ぼくは新聞でも見たことがあるけど・・・。

実践の目的

① 実際に被災地の様子を自分の目で確かめ、そこで働く方々の話を聞き、東日本大震災津波の被害の状況や、復興に向けての取組について理解する。

② 自分たちにできることは何かを考える機会とする。

【実践の詳細】

1 事前学習会

東日本大震災の概要、訪問先へのルート、学習内容と目的等について学習した。

被災地への訪問学習のめあて
「よく見て、よく聞き、震災を学ぼう」



「どんなところかな？」



学習してくることは—

2 被災地への訪問学習

《日 程》

学校発（7：10）⇒①震災学習列車（久慈駅9：10～田野畑駅10：30）⇒北山崎（11：00～11：45）⇒野田村 ②押川先生のお話（13：00～14：00）⇒学校着（16：10）

① 震災学習列車

当日はお座敷列車に乗車した。大きな被害を受けたところでは徐行運転でしっかり見ながら説明していただき、復旧工事が少しずつ進んでいることを知った。

児童の感想

津波で15800人の人が亡くなったのがこわいと思いました。それから海が見えないのがこわいということを初めて知りました。
(3年男子)

三陸鉄道は津波から5日で列車を走らせたというのがすごいと思いました。これからは防災意識を高め、何があっても生き延びたいと思いました。
(5年男子)



海に向かって黙とう



たくさんのことを教えてくださった三陸鉄道の二橋さん

② 野田村 押川先生のお話

野田村の医師押川先生は、震災当時、診療所も被災し、何も無いところでがをされた方々をみんなで協力して助けたお話をしてくださいました。

児童の感想

海はすごく青いけど、震災のときは真っ黒な波が来た話を聞いて、以前テレビで見た映像を思い出しました。先生の「がんばる時はがんばる」という言葉が心に残りました。せいいっぱいがんばりたいです。(4年男子)

きずなや他の人に対する思いやりがとても大切なことをあらためて学びました。あんなにきれいな海なのにとてもこわい津波がくるなんて海はこわいと思いました。私は、これから復興に関するお手伝いをどんどんやりたいと思いました。(6年女子)

押川先生への学校紹介



津波の恐ろしさを語る押川先生



3 地域の方々へ伝える活動

毎年、地域の方々をお招きして行っている集会では、被災地訪問学習で学んだことを地域の方々や1、2年生に伝える活動を行った。

学習発表会では、作品展の会場に、「伝える活動」で使った資料をまとめたものを展示して、保護者の方々にも見ていただいた。

学年ごとに内容を工夫して発表



パネルに展示

まとめ

- 初めて被災地の様子を目にした児童がほとんどだった。被災の現状を自分の目で確かめ、直に話を聞いたことで、自分にできることを考えたり、どんなふう生きていくかを考えたりするきっかけとなった。
- 新聞や発表、お礼状等で、学んだことを発信する活動をとおして、さらに学習を深めることができた。例えば、6年生は復興に向けて自分たちにできることとして、「伝える」「助ける」ことについて具体的に話し合ったり考えたりした。
- 発信を受け止めてくれた保護者・地域の方々が、改めて東日本大震災を振り返りたいへん有意義な機会にもなったようである。

あまちゃんにまつわるエピソードも満載



押川先生に感想を伝える様子



カンパネラ田野畑駅で記念撮影



6年生の「自分たちにできること」の発表

